今年の高尾梅郷祭は、３月９日・１０日の土日です。小仏川沿いは梅林が点在しています。春の陽気に誘われて梅見に出かけるのも恒例になりました。写真は、一番奥にある木下沢（こげざわ）梅林です。小高い山が梅一色で美しいです

紅葉台 新聞

第１２０号
２０２４年
３月９日
発行人：関谷　孝

地元発見探鳥会　浅川2か所の復元ワンドと南浅川

１月１６日真冬らしい寒さと強風の日でした。八王子駅に９時集合８名参加。八王子駅から北に延びる大きな直線道路「マロニエ通り」を歩きます。ここは、桑都八王子が栄えていた時は桑の木（マルベリー）が街路樹となっていました。しかし、駅前の地下駐車場をつくったときにマロニエ(紅花トチノキ)の木が植えられました。発音が似ているのは偶然ではないようですが面白いですね。粕谷会長が「マロニエの葉が茂るとこの木々はムクドリのねぐらになってたくさんの鳥がやって来るので騒がしくなる」と教えてくれました。

甲州街道を越えると昔からある桑の木の街路樹になります。かつては、フランスが絹糸を盛んに作っていましたがカイコの病気が蔓延し、日本が絹糸の生産地として変わったとのことです。そのため富岡製糸工場はフランスの機械が導入されています。八王子は関東各地の絹糸の集積地として交通の要所です。ここから横浜まで伸びる横浜線は日本版絹の道でもありました。そんな歴史も話題になる探鳥です。浅川につくと河原を冷たい風が吹きすさんでいました。ダイサギやアオサギがじっと川面にたたずんでいます。餌になる魚がいる証拠です。

上空をオオタカが滑空します。カワラバトの群れが一斉に飛び立ちます。会長が「オオタカは胸が白くなっている」「ハトの中で逃げ遅れたり群れから逸れたりしたのが狙われるんだよね」と話していました。ここは、河原が開けていて猛禽類にとっては格好のえさ場です。
途中、ヒヨドリが岩に縦に止まって水を飲んでいました。そこへキセキレイがやって来て同じように水を飲んでいました。水辺にはセグロセキレイがたくさんいました。

いよいよ、川口川（東京都河川）と浅川（国の河川）が交わる場所に来ました。ここが１つ目のワンドです。ワンドとは、川の本流と繋がっているが、池のようになっている地形のことです。ワンドは、魚類などの水生生物に安定した棲み処を与えるとともに、様々な植生が繁殖する場ともなっています。カワセミ会では、川が年々コンクリートで固められていく姿に反して、このような生きものが生息する場所を残すことを提案してきました。今は、緑色の芝のようになって池が土砂で埋め立てられていますが、かつては池になっていたそうです。この２つの川にかかる橋は、「なかのばし」と言って橋の欄干にカルガモの親子やアユが彫刻になって飾られていました。素敵ですね。カルガモがいました。それを狙ってかハイタカが現れました。

浅川沿いを上流にさかのぼっていくと葦や枯れ草がたくさん生えているところに出ます。ここには、最近クイナやベニマシコ、オオジュリンが出たとの情報がありましたが、この日は残念ながら見ることが出来ませんでした。また、タヌキの屍があったとのことでどうりで上空をトビが旋回していました。アオサギやダイサギはお互いの間隔を空けて川に住み着いているようです。

八王子市役所近くに自然のワンドがありました。草や池が野鳥を外敵から守るとともに餌も豊富なのでしょう。コガモの集団がいました。こういう風景を見るとホッとします。ワンドは生き物にとって大事な場所だと思います。すぐ近くの人工的に作った２つ目のワンドは水が干上がって残念な姿でした。市役所で休憩をとり、ここで鳥合わせをしました。ベストはなんといってもオオタカ、イソシギ、ワンドのコガモたちでした。初めて参加した方やベテランの方もいましたが、それぞれ教え合って楽しい探鳥会でした。ワンドがこれからも生き物たちの命をつなぐ場所であってほしいと願います。

粕谷和夫の観察日記

２月３日、八王子・湯殿川の野鳥定期カウント時の一コマです。コガモが日向ぼっこです。立春も過ぎるとコガモたちは求婚活動を開始します。この写真の上はコガモのオス２羽がライバル意識もなさそうですが、そろそろ求婚活動を始めます。メス１羽の周りを泳ぎ回り、「ビロッピッロッ」と発声しながら首を伸び縮みし、尻を上げ、下尾筒の黒縁の黄色をメスに見せつけるディスプレイをします。暖かい日は、求愛行動が頻繁に行われます。賑やかです。

２月１０日、印旛沼にトモエガモの集団を観察しに行った時、印旛日本医大駅から歩いて行って、印旛沼への入り口付近の田んぼでチョウゲンボウ（左）、甚兵衛大橋付近でカンムリカイツブリ（右）が出迎えてくれました。

無患子（ムクロジ）の実です。八王子市内の農家の屋敷林で冬の青空をバックに実が輝いていました。古くから、皮が石鹸に利用されソープナッツとも呼ばれていました。また、皮を剥くと中に固い黒い種があり、これが羽根つきの羽根を挿す実となります。「無患子」は「子供が患（わずら）うことが無いように」という意味が込められています。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」の HP に公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。